

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhg@extra.ocn.ne.jp URL: http://blrhg.org/



所長の諏訪山だより

子どもに金をかけない国

昨年末のことだが、公立小学校の1クラスあたりの上限人数を全学年35人にする方針が政府から発表された。何を寝ぼけたことを言っているのか。OECD加盟国平均の1クラスの人数は、小学校21.3人、中学校22.9人だ(2017年)。当然、日本はOECD加盟国のなかでは最下位レベルだ。欧米では20人以下が原則である国が多い。アジアでも韓国はソウルの小学校で平均22.6人、中学校でも平均23.7人だという。

1クラス定員を20人以下にすると、児童・生徒の成績が上昇するという研究報告は数多い。40人を35人に、35人を30人にというレベルではなく、クラス定員を20人以下にしてはじめて学力向上の顕著な効果があらわれるという(和田秀樹「少人数学級「35人」では手ぬるい」産経新聞2021年2月25日)。さらに、1クラス定員を20人以下にすると、教員の負担は減り、児童・生徒一人ひとりに教員の目がより行き届くだろうし、なによりも児童・生徒のストレスが軽減されるので、いじめも少なくなるのではないか。それを今になっても35人というレベルで検討しているのである。日本は本当に子どもに金をかけない国だと思う。

ヨーロッパでは大学まで授業料がないという国がいくつもある。また、大学に授業料があっても、その額は日本とケタが違ふほど少ない。OECDの調査によると(2018年)、小学校から大学までの教育機関への公的支出が国内総生産(GDP)に占める割合は、OECD加盟国のうち、調査ができた34か国中、日本は2.9%で最下位だった。34か国の平均は4.2%、1位だったノルウェーは6.3%であった。

子どもに金をかけないのは、教育だけではない。保護者のいない子ども(18歳未満)や、保護者に養育させることが適切ではない子どもなどを公的責任で社会的に養育することを社会的養護というが(ここには子どもに対する心理的ケアも含まれる)、この社会的養護費用に、子ども虐待に対応する児童相談所と市町村の費用を加えたものが日本では1,000億円だが、米国は3兆3,000億円だそう(日本子ども家庭総合研究所の試算)。日本の社会的養護は児童養護施設に「丸投げ」する施設養護が未だに主流で、家庭的な環境で子どもが養育される里親委託が19.7%(2017年)しかなく、それは豪93%、米77%、英70%を大きく下回っている。

日本を子どもに金をかける国にしていくには、子ども問題に本気で取り組む政治家を増やすしかなく、そのためには子どもという課題が票になるような投票行動を有権者が取ることだ。要するに、有権者が変わらなければいけないという、これまで何度も言われてきた結論に行きつく。今年は総選挙の年である。山の動く日は来るのか。それとも、また空しく終わるのか。

所長 石元清英

はじめてみよう！

部落問題学習、考え方・実践のヒント (その5)

当研究所では「これからの部落問題」学習プログラム作成研究会を組織し研究を重ね、2017年3月に解放出版社より『はじめてみよう！これからの部落問題学習』（2,000円+税）を刊行しました。うれしいことにご好評をいただき、2020年8月、2度目の増刷となりました。当欄では『はじめてみよう！』掲載の16のコラムを順次掲載し、部落問題の考え方のヒント、学習実践のヒントをご提供していきます。

▶ 『部落と同和地区とは、どう違うのか』

／石元清英（関西大学社会学部教授、ひょうご部落解放・人権研究所所長）

部落とは、本文で詳述したように、周囲から部落であるとみなされた集落（地区）です。近世賤民であった穢多身分や非人身分の人たちの集住地が部落となっているという理解が一般的ですが、穢多・非人以外にも、近世の藩独自の賤民身分であった茶筍（ちゃせん）（福山藩）や鉢屋（はちや）（松江藩、鳥取藩）などの集落、さらには、近世では身分制度の上で平人（百姓や町人）とされた夙（しゆく）（宿（しゆく））や声聞師（しょうもじ）などの中世賤民の系譜をひく集落、これらのなかにも部落になっているものがあります。また、なっていないものもあります。

こうした部落とされた集落のうち、同和対策事業の実施対象となったものが同和地区です。全国水平社創立宣言に「吾々がエタであることを誇り得る時が来たのだ」とあるように、部落解放運動は穢多村の系譜をひく部落が中心となって進められてきました。そのため、穢多系の部落の多くは同和地区の指定を受けましたが、夙や声聞師などの系譜をひく部落は「自分たちは穢多ではない」と、同和地区の指定を拒みました。また、穢多系の部落のなかにも、同和地区の指定を受けることは、「ここは部落だ」と周囲に宣言することと同じで、その結果、差別が厳しくなるという理由で、地区指定を受けないケースも多くみられました。このように、部落には同和地区の指定を受けた部落と、受けなかった部落があるのです。

1993年の国の調査によると、同和地区は36府県に4,442地区を数えます。同和地区は同和対策事業の実施対象とされた部落なので、その数はわかりますが、部落は周囲から部落とみなされた集落（地域）なので、その数は正確にはわかりません。そのため、同和地区に指定されていない部落がどれほどあるのかも、よくわからないのです。



まんがのすゝめ

『未生 ミセン』全9巻

作：ユン・テホ／訳：古川綾子・金承福、2016年、各1,210円（税込）、講談社コミッククリエイト

最近、スマホで漫画を読むことが多くなった。とくに寝る前の30分ほどは、必ずといっていいほどアプリを開く。小さなスマホの中には驚くほどたくさんの作品が詰まっているので、普段はあまり手に取ることのない様々なジャンルの作品をつまみ読みすることもできる。ただ、寝入りばなに読んでいると、たまに顔面にスマホを落とし、痛くて情けない目にあったりもするけれど。

数ある漫画配信サイトの中で、筆者は「ピッコマ」という韓国発のサイトを利用している。このサイトでは日本の漫画はもちろん、韓国のWebtoon（ウェブ漫画）が読める。今回ご紹介する作品「未生（ミセ



ン)」は、ドラマの大ヒットで日本でも有名になったが、原作はこのWebtoonだ。

幼いころから棋士を目指していた主人公のチャン・グレは、プロ棋士試験に失敗し、後援してくれた人が経営する企業に入社するが、周囲の好奇の目や会社生活になじめず、すぐに退社し、社会から逃げるように兵役につく。除隊後、社長の紹介で再び総合商社に契約社員として入社したグレだが、高卒認定試験を受けただけで、企業生活に必要なとされるスペックを何ももたない。周囲の冷たい視線の中、孤独にさいなまれ、壁にぶち当たるたびに、グレは挑んだ囲碁の勝負や師匠の言葉を思い浮かべ、一手ずつ石を打ち進めていく。

タイトルの「未生(ミセン)」とは、囲碁用語で「死んでもいないし、生きてもいない石」、つまり、勝負の上で「これから必要になるかもわからない状態の石」の意味だという。

それだけでなく、激しい競争社会である韓国の、一層厳しい企業社会の中で、自身の前の道をまっすぐに見つめ生きようとする姿と、人と人との信頼関係が紡がれていく様子を描いた作品は、多くの人の共感を呼び、漫画のみならず、漫画を原作にしたドラマも未曾有の大ヒット、韓国で「ミセンシンドローム」と呼ばれる社会現象を巻き起こした。

ところで、このWebtoon、日本ではまだなじみが薄いかもしれない。これは韓国で1990年代末ごろから始まった、ウェブで公開することを前提として描かれた新しい漫画の形である。従来の漫画のように見開きではなく、上下にスクロールして読めるように設定されており、全ページ、オールカラー。小さな画面でも見やすいようにコマ割りも極めて少ない。ウェブ上に公開してから人気が出た作品は、あとから紙媒体で出版される。韓国で漫画の出版業界が斜陽になっていったことから生み出されたこの手法は、デジタル化の進行とともに全世界的なビジネスとして発展を遂げた。

ただ、日本公開にあたって、何に忖度したのかと、首をかしげたくなることもある。たとえば、登場人物や場所を日本に置き換えて翻訳版を配信していることだ。ドラマの大ヒットで有名になった「梨泰院(イテウォン)クラス」もピッコマでの翻訳版は「六本木クラス」。主人公パク・セロイの名前は「宮部新(みやべあらた)」。そんな作品が数多くある。日本で活躍する在日コリアンの芸能人と同じような状況が、漫画の主人公たちにも課せられているのか。つくづく日本社会の閉塞感を感じる。(K)

▶『人権政策マップ』報告書』発行遅延のお詫び

前号でお知らせしていた『人権政策マップ2019』兵庫県内自治体の同和行政に関するアンケート調査報告書(詳細結果編)』(仮称)は、3月下旬の発行予定でしたが、遅延いたします。4月中の発行を目指し鋭意編集中です。

お申込みいただいた方には大変ご迷惑をおかけします。謹んでお詫び申し上げます。

事務局から

- 在日コリアンの友人の姪が、帰化をしてオリンピックの女子野球日本代表に選ばれたという知らせ。日本で生まれ育った若い世代。いろんな選択肢があっていい。心から応援したい。(K)
- ネット上に差別的な言説や不確かな情報があふれる中、人権に関するネット発信が非常に遅れていると実感します。研究所ではHPのリニューアルを予定しています。皆様のお知恵をいただければ幸いです(H)
- 平日は在宅勤務の日があるので外出が減り、休日はコロナ禍を考え外出を控え、運動不足がひどくなりました。そのため(?)、色々な数値が劇的に悪化し、現在、糖質制限中です(Ka)
- 娘ちゃんと一緒にスイミングスクールに通い始めました。娘ちゃんは大変気に入ったようで、準備体操もおろそかに真っ先にプールに入り、満面の笑みでキャキャ言いながら浮かんでいます。(ひ)

一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

2021年度人権セミナーのお知らせ

ひょうご部落解放・人権研究所では、2021年度は全5回の人権セミナーを開催します。今年度はオンラインでも配信します。また、特別会員のみなさまにセミナー無料クーポン券をお配りいたします。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

第1回 何が部落となったのか —20世紀初頭における部落問題の成立

日時：2021年6月26日（土）14時～16時
講師：石元清英
（ひょうご部落解放・人権研究所所長）
場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室
定員：50人

第2回 被差別部落女性の 主体性形成に関する研究（仮題）

日時：2021年7月24日（土）14時～16時
講師：熊本理抄さん
（近畿大学人権問題研究所教員）
場所：兵庫県立のじぎく会館 101・102号室
定員：30人

第3回 同和对策事業から平等を考える

日時：2021年9月18日（土）14時～16時
講師：柴原浩嗣さん
（大阪府人権協会事務局長）
場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室
定員：50人

第4回 差別糾弾と謝罪 —全国水平社創立100周年にかかわって

日時：2021年12月4日（土）14時～16時
講師：朝治武さん（大阪人権博物館理事長）
場所：未定
※詳細が決まり次第お伝えします。

第5回 部落のアメリカ移民

日時：2022年2月12日（土）14時～16時
講師：関口寛さん
（四国大学准教授）
場所：兵庫県立のじぎく会館 201号室
定員：50人

- 参加費
正会員：無料 一般：1000円
定期購読・学生・障害者：500円
※特別会員のセミナー無料クーポンは2021年度の会費請求時にお送りいたします。
- 事前のお申し込みをお願いします。
- オンライン配信についての詳細は後日HP等でお知らせします。

■正会員・特別会員のみなさまへ《会員特典ご案内》

日頃より当研究所の活動にご理解ご協力くださり、ありがとうございます。以下の会員特典を用意しておりますので、ぜひご活用ください。

- ①機関誌『ひょうご部落解放』の送付（年3号）
- ②機関誌バックナンバー、研究所発行書籍の割引（20%オフ）
- ③『HB通信』の配信（希望者には郵送）
- ④【正会員のみ】人権セミナー参加費無料
- ⑤【特別会員のみ】人権セミナー無料クーポン券配布（2021年度新設）

■新決済方法導入のお知らせ

研究所では、2021年4月より新しい決済方法を導入します。会費や定期購読料、書籍代金やセミナー参加費などのお支払いについて、クレジットカードなどによるネット決済やコンビニ決済などもご利用いただけるようにする予定です。利用可能になりましたら、ホームページやSNSでお知らせいたします。ぜひご利用ください。